

ふりがな

みやじ なおこ

氏名

宮地 尚子

## 1. 学歴

- 1986年3月 京都府立医科大学卒業  
1989年4月 京都府立医科大学大学院医学博士課程入学  
1993年3月 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了  
1993年6月 博士（医学）取得  
2007年9月 フルブライト・フェロー（-2008年8月）  
（ハーバード大学医学部・ケンブリッジヘルスアライアンス客員研究員）

## 2. 職歴・研究歴

- 1986年7月 国立大阪病院精神神経科臨床研修医  
1988年7月 ペンシルバニア大学付属病院精神科研修  
1988年10月 平和会吉田病院精神科勤務  
1989年10月 ハーバード大学医学部社会医学教室客員研究員  
1990年9月 ハーバード大学法学部人権プログラム客員研究員  
1993年4月 AMDA（アジア医師連絡協議会）  
ジブチ・ソマリア難民キャンプ医療援助プロジェクト派遣医師  
1993年9月 近畿大学医学部衛生学教室助手  
1997年11月 近畿大学医学部衛生学教室講師  
2001年2月 近畿大学医学部衛生学教室助教授  
2001年4月 一橋大学大学院社会学研究科助教授  
2006年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授

## 3. 学内教育活動

### （A）主な担当講義名

#### （a）学部学生向け

導入ゼミナールⅠ・Ⅱ

#### （b）大学院

トラウマと地球社会、地球社会と生命、地球社会研究、インターンシップⅠ・Ⅱ、リサーチ演習Ⅰ・Ⅱ、プロジェクト演習、地球社会博士特論

### （B）ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

文化精神医学、医療人類学、トラウマと文化・社会、ジェンダー・セクシュアリティ論、生命倫理

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- ・『トラウマにふれる—心的外傷の身体論的転回』金剛出版、2020年。
- ・加藤泰史, 小島毅編『尊厳と社会(下)』法政大学出版局、2020年(分担部分:「尊厳と暴力—公的領域・親密的領域・個的領域の三分法から考える」58-73頁)。
- ・『環状島效應』経済新潮社、2019。
- ・「Volver la Vista al Pasado: Violencia Masiva y Memoria en Japon y en Espana」Carmen García García Ed. 『Acerca del Trauma Inexpresable: La Isla Toroidal Servicio de Publicaciones de la Universidad de Oviedo.』2019年. 37-47頁。
- ・『Hành Trình Học Làm Mẹ (published in Vietnamese)』SkyKids、2018年。
- ・『ははがうまれる』福音館書店、2016年。
- ・『Trauma(the Korean edition)』省安堂、2015年。
- ・上野千鶴子『セクシュアリティをことばにする』青土社、2015年(分担部分:「セクシュアリティをどう語るか」155-203頁)
- ・「災害と文明」取材班 編『災害と文明』潮出版社、2015年(分担部分:1「トラウマを耕す—心の傷を豊かな土壌に変える」81-186頁)
- ・足羽與志子,中野聡,吉田裕編『平和と和解—思想・経験・方法』旬報社、2015年(分担部分:「トラウマを耕す—ドゥブリュ教授の報告への応答」360-377頁)
- ・友田 明美, 杉山 登志郎,谷池 雅子 編『子どものPTSD—診断と治療—』診断と治療社、2014年(分担部分:「トラウマは耕せるのか」68-69頁)
- ・『トラウマ』岩波書店、2013年
- ・澁谷智子 編「女って大変。—働くことと生きることのワークライフバランス考」医学書院、2011年(分担部分:「看取りをめぐる」179-206頁)
- ・『震災トラウマと復興ストレス』岩波書店、2011年。
- ・安克昌『心の傷を癒すということ—大災害精神医療の臨床報告 増補改訂版』作品社、2011年(分担部分:「一九九五年から、二〇一一年への伝言」428-440頁)
- ・『傷を愛せるか』大月書店、2010年。
- ・『性的支配と歴史:植民地主義から民族浄化まで』大月書店、2008年。
- ・『医療現場におけるDV被害者への対応ハンドブック』明石書店、2008年。
- ・荒木葉子編『臨床医が知っておきたい女性の診かたのエッセンス』医学書院 2007年(分担執筆)
- ・『環状島=トラウマの地政学』みすず書房、2007年。
- ・『トラウマの医療人類学』みすず書房、2005年。
- ・『トラウマとジェンダー:臨床からの声』金剛出版、2004年。
- ・『異文化を生きる』星和書店、2002年、分担部分:1-240頁)
- ・加茂直樹編『社会哲学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年(分担部分:「ジェンダーとセクシュアリティ」144-156頁)
- ・『Globalizing Feminist Bioethics.』Westview Press 2001年。
- ・『文化精神医学序説:病い・物語・民族誌』金剛出版 2001年。
- ・稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000年(分担部分:「難民を救えるか?」269-286頁)
- ・加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社、1998年(分担部分:「文化と生命倫理」

289-301 頁)

- ・大西守編『多文化間精神医学の潮流』診療新社、1998 年（分担部分：「電話相談活動と文化精神医学:AMDA 国際医療情報センターの活動を通して」306-326 頁）
- ・『臨床精神医学講座第 23 巻:多文化間精神医学』、中山書店、1998 年（分担部分：「現代社会と女性のメンタルヘルス」99-110 頁）
- ・鈴木 満, 太田 博昭, 立見 泰彦『邦人海外渡航者の精神保健対策—欧州地域を中心とした活動の記録』信山社、1997 年（分担部分：194-212 頁）
- ・西崎真理子『国際協力を仕事として』弥生書房、1995 年（分担部分：170-189 頁）
- ・『海外生活者のメンタルヘルス』法研、1994 年（分担部分：73-95 頁）
- ・『いのちといのちの間で—私たちにとっての脳死・臓器移植問題』バオバブ社、1994 年、（分担部分：81-112 頁）

## (b) 論文

- ・「コロナ禍での親密的領域における暴力:個的領域の尊重という視点から」(共著)『精神療法』47 巻 2 号 2021.03.
- ・「環状島の水位を下げる」(共著)『現代思想』49 巻 3 号 p.8-22, 2021.03.
- ・「現代社会におけるジェンダーと解離」(共著)『精神療法』47 巻 1 号 p.21-27, 2021.02.
- ・「マルトリートメントとレジリエンス」『精神科治療学』36 巻 1 号 p.73-78, 2021.01.
- ・「トラウマインフォームドケアと環状島」(共著)『こころの科学』214 号 p.102-112, 2020.11.
- ・「トラウマと声・身体」(共著)『こころの科学』212 号 p.93-103, 2020.07.
- ・「医療のなかのトラウマ:環状島モデルを用いて」『患者安全推進ジャーナル』60 号 p.37-45, 2020.06.
- ・「「被害」と「加害」の螺旋を超えて—「プリズン・サークル」から考える」(対談)(共著)『こころの科学』210 号 p.98-108, 2020.03.
- ・「ジェンダーとトラウマをめぐる今日的課題」(共著)『臨床精神医学』49 巻 2 号 p.171-177, 2020.02.
- ・「精神科医・安克昌からのメッセージ: NHK ドラマ「心の傷を癒すということ」を読み解く」(共著)『トラウマティック・ストレス』18 巻 2 号 p.12-30, 2020.02.
- ・「トラウマとリカバリー (インタビュー)」『臨床心理学』20 巻 1 号 p.13-21, 2020.01.
- ・「「二重のまち/交代地のうたを編む」を見ながら」(共著)『東北の風景をきく FIELD RECORDING』3 巻 p.16-39, 2020.01.
- ・「解離性同一性障害とジェンダー」『トラウマティック・ストレス』17 巻 2 号 p.23-33, 2019.12.
- ・「時間と空間の調律:旅によせて」『トン族の詩にふれて—旅とシンポジウム』2019.07.
- ・「DV (ドメスティック・バイオレンス) からみえてくる公共——公的領域/親密的領域/個的領域の三分法」(共著)『思想』1140 号 p.23-39, 2019.04.
- ・「切実さをもって切実さと出会う」(共著)『わたしの人権の森』p.40-56, 2019.03.
- ・「こころの内海に潜る——スキーマ療法と環状島」(共著)『そだちの科学』204 号 p.97-106, 2019.03.
- ・「臨床における秘密と嘘——『環状島』から考える」(共著)『そだちの科学』202 号 p.98-106, 2018.11.
- ・「トラウマを抱えた人への支援の現状と課題」(共著)『社会福祉研究』133 号 p.2-8, 2018.10.
- ・「生き延びるとのこと——島尾ミホと敏雄」『島尾敏雄・ミホ——共立する文学』p.18-21, 2018.07.
- ・「トラウマへのまなざし、トラウマを耕すことへの感性」(共著)『そだちの科学』29 号 p.80-84, 2017.10.
- ・「被害者とトラウマ」(共著)『犯罪被害者と刑事司法』p.88-108, 2017.09.
- ・「領域を越えて、トラウマを耕す」(共著)『こころと文化』16 巻 1 号 p.30-35, 2017.06.
- ・「性的な傷つきを語りうる「場」を求めて:「聞こえない」と「聞こえすぎる」のあいだで起きていること」(共著)『支援』7 号 p.35-51, 2017.05.
- ・「震災・復興におけるトラウマ: <環状島>モデルを用いて、その複雑な仕組みを解明する」(共著)『月刊保団

連』1237巻p.4-9,2017.03.

- ・「領域を越えて、トラウマを耕す」(共著)『こころと文化』16巻1号p.30-35,2017.02.
- ・「ドメスティック・バイオレンス(DV)とはなにか」(共著)『保健の科学』59巻1号2017.01.
- ・「人という毒,人という薬」(共著)『臨床心理学』16巻5号p.535-539,2016.09.
- ・「虐待サバイバーとレジリエンス」『子どもの虐待とネグレクト』17巻3号p.346-352,2016.02.
- ・「治療関係における「安全さ」を求めて——トラウマ臨床における配慮」『精神看護』18巻6号p.557-561,2015.11.
- ・「食べることの調律もしくは食べることの失調——複雑性トラウマと摂食障害」『そだちの科学』25巻p.77-82,2015.10.
- ・「医療のなかのトラウマ——環状島モデルを用いて」『患者安全推進ジャーナル』41巻p.65-73,2015.09.
- ・「心の傷と共に生きるといふこと~PTSDとトラウマ~」『矯正医学』63巻2-4号p.26-43,2015.02.
- ・「ザ・更年期」『臨床精神医学』43巻11号p.1673-1673,2014.11.
- ・「子どもの性被害の長期的影響と回復」『そだちの科学』23号p.64-70,2014.10.
- ・「<Think about Women 女性について考える>女性の弱さ・逞しさ」『WHITE』2巻1号p.52-55,2014.10.
- ・「関係性の中の暴力と傷つき—デートDV、デートレイプ、ストーカーの被害者にも加害者にもさせないために」『2014年度 両性の自立と平等をめざす教育研究会報告集 両性を自立と平等をめざす教育研究推進のために「ジェンダー平等教育をすすめるよう~関係性・多様性の中で~」』p.10-20,2014.08.
- ・「心の傷と向き合い支え合う—トラウマとは何か」『藤沢市医師会報』465巻p.2-8,2014.06.
- ・「トラウマ関連問題の治療者が心得ておくべきもの」『精神科治療学』29巻5号p.659-665,2014.05.
- ・「ドメスティックバイオレンス(DV)はなぜ起こるのか—人文社会科学的側面からの考察—」『保健の科学』56巻1号p.4-9,2014.01.
- \* 「A New Metaphor for Speaking of Trauma – The Troidal Island Model」『Violence and Victims』29巻1号p.137-151,2014.01.
- ・「想像の繭、飛べない羽」『ユリイカ』45巻11号p.181-184,2013.08.
- ・「支援者の心の傷つき—息の長い活動を続ける秘訣は自分をいたわること」『女も男も / 労働教育センター編集部編』121号p.76-85,2013.05.
- ・「領域横断:もしくは、新書はなぜ書きにくい」『臨床精神病理』34巻1号p.3-7,2013.04.
- ・「医師と支援ボランティア」『治療の聲』13巻1号p.61-68,2012.10.
- ・「文化とトラウマ」『こころの科学』165巻p.22-27,2012.09.
- ・「トラウマを語ること／語らないこと」『月刊福祉』95巻p.44-45,2012.03.
- ・「宙づりを生きる知のありかた」『津波の後の第一講』2012.02.
- ・「セクシュアリティはいかに語り得る／得ないのか」『現代思想』39巻17号p.152-173,2011.12.
- ・「「心のケア」とは何か」『オルタ』9-10号p.24-25,2011.09.
- ・「災厄のもたらす身体—被災地から性産業へ」『現代思想』39巻11号p.118-125,2011.08.
- ・「本当の非日常の話」『新潮』p.304-305,2011.06.
- ・「薬物依存とトラウマ:女性の依存症者を中心に」『現代思想』38巻14号p.48-55,2010.12.
- ・「親密的領域での暴力は被害者から何を奪うのか」『ジュリスト』1409巻p.152-161,2010.10.
- ・「国際トラウマ解離学会で安さんを思う」『治療の声』9巻1号p.31-36,2009.09.
- ・「Domestic Violence に対して精神科医が出来ること」『精神科治療学』23巻12号p.1455-1462,2008.12.
- ・「男性の性被害:被害と加害の「連鎖」をめぐる」『トラウマティック・ストレス』6巻2号p.145-155,2008.09.
- ・「ジェンダーと家族療法とトラウマ」『家族療法研究』24巻2号p.88-91,2007.08.
- ・「トラウマと医療人類学」『物性研究』88巻4号p.549-551,2007.07.
- ・「暴力とトラウマ」『女性学(日本女性学会学会誌)』14巻p.8-20,2007.05.

- ・「特集：ジェンダーと家族療法（宮地尚子，中村正，中釜洋子，田村毅，後藤雅博（司会）座談会）」『『家族療法研究』 家族療法研究』 24 巻 2 号 2007.04.
- ・「男児／男性の受ける性被害についての『レイプ神話』に関する大学生意識調査」（共著）『厚生科学研究「児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究」（H17-子ども-003）報告書（CD-ROM）』 2007.04.
- ・「男児／男性の受ける性被害 ～望まない性的行為の経験率と、それに対する被害認識～」（共著）『厚生科学研究「児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究」（H17-子ども-003）報告書（CD-ROM）』 2007.04.
- ・「環状島：トラウマの地政学(11)」『みすず』 553 巻 2007.
- ・「環状島：トラウマの地政学(10)」『みすず』 551 巻 2007.
- ・「環状島：トラウマの地政学(9)」『みすず』 549 巻 2007.
- ・「環状島：トラウマの地政学(8)」『みすず』 547 巻 2007.
- ・「トラウマと医療人類学」『物性研究』 88 巻 4 号 2007.
- ・「暴力とトラウマ」『女性学（日本女性学会学会誌）』 14 巻 2007.04.
- ・「ジェンダーと家族療法とトラウマ」『『家族療法研究』』 24 巻 2 号 2007.04.
- ・「環状島：トラウマの地政学(7)」『みすず』 544 巻 2006.
- ・「環状島：トラウマの地政学(6)」『みすず』 542 巻 2006.
- ・「環状島：トラウマの地政学(5)」『みすず』 540 巻 2006.
- ・「環状島：トラウマの地政学(4)」『みすず』 538 巻 2006.
- ・「環状島：トラウマの地政学(3)」『みすず』 537 巻 2006.
- ・「環状島：トラウマの地政学(2)」『みすず』 536 巻 2006.
- ・「passing on=手渡す・伝える--エイミー・ベンダーとの対話（特集 エイミー・ベンダー）」『すばる（集英社）』 28 巻 11 号 2006.04.
- ・「男児への性的虐待：気づきとケア」『小児の精神と神経（小児精神神経学会誌）』 46 巻 1 号 2006.04.
- ・「男児への性的虐待：気づきとケア」『小児の精神と神経（小児精神神経学会誌）』 46 巻 1 号 p.19-29, 2006.03.
- ・「解離をめぐる問い：パトナム先生を囲んで」（共著）『トラウマティック・ストレス』 4 巻 1 号 2006.02.
- ・「支配としてのドメスティック・バイオレンス（DV）：個的領域のありか」『現代思想』 33 巻 10 号 p.121-133, 2005.09.
- ・「男制の暴力性とオルタナティブな親密性」『情況』 6 巻 5 号 p.162-171, 2005.06.
- ・「環状島：トラウマの地政学（1）」『みすず』 534 巻 2005.04.
- ・「治療者のジェンダー・センシティブティ」『精神療法』 31 巻 29 号 p.177-183, 2005.04.
- ・「ある一日：ジェンダー・暴力・身体」『こころと文化(多文化間精神医学会誌)』 3 巻 2 号 p.126-132, 2004.09.
- ・「拷問とトラウマ」『日本トラウマティック・ストレス学会誌』 2 巻 1 号 p.13-20, 2004.04.
- ・「拷問・性被害」『大規模緊急事態におけるメンタルケア・ハンドブック』 p.84-91, 2004.03.
- ・「精神医療と日本文化：「失調」と「障害」についての一考察」『こころの科学 109（新福尚隆編：精神医学・医療の国際比較）』 p.106-111, 2003.04.
- ・「性暴力と PTSD」『ジュリスト』 1237 号 p.156-173, 2003.04.
- ・「学問のクレオール：もしくは 亡き友への手紙」『一橋論叢』 127 巻 4 号 p.462-481, 2002.04.
- \* 「揺らぐアイデンティティと文化精神医学」『Transcultural Psychiatry』 39 巻 2 号 p.173-195, 2002.04.
- ・「PTSD 概念をどう法は受け止めるべきか？」『ジュリスト』 1227 号 p.2-5, 2002.04.
- ・「Inaga, Shigemi ed: "The Fourteenth International Symposium: Crossing Cultural Borders: Toward an Ethics of Inter-cultural Communication-Beyond Reciprocal Anthropology" ("Ethical Dilemmas in Medical Assistance at Refugee Camps:A Case

in Djibouti ")」『Nov10-13 p251-262』 2001.04.

- ・「Ethical Dilemmas in Medical Assistance at Refugee Camps:A Case in Djibouti.」『Crossing Cultural Borders: Toward an Ethics of Inter-cultural Communication-Beyond Reciprocal Anthropology.』 2001.04.
- ・「ニューヨーク在留邦人コミュニティにおける精神保健 サービスの需要と供給」(共著)『文化とところ』 5 巻 2001.04.
- ・「ボストン在留邦人コミュニティにおける精神保健サービスの需要と供給」(共著)『文化とところ』 5 巻 2001.04.
- ・「邦人援護」『こころの臨床アラカルト』 19 巻 1 号 p.90-93,2000.04.
- ・「移住者のメンタルヘルスケアシステム」『文化とところ(多文化間精神医学研究)』 4 巻 1&2 号 p.30-37,2000.04.
- ・「現代社会と女性のメンタルヘルス:ジェンダーセンシティブな治療を目指して」『精神神経学雑誌』 101 巻 1 号 p.3-8, 1999.04.
- ・「揺れるアイデンティティと多文化間精神医学」『文化とところ(多文化間精神医学会雑誌)』 3 巻 2 号 p.92-103, 1999.04.
- ・「ステレオタイプ」『こころの臨床アラカルト』 18 巻 3 号 p.401-404, 1999.04.
- ・「恋愛と結婚」『こころの臨床アラカルト』 18 巻 4 号 p.530-533, 1999.04.
- ・「医療人類学と女性問題」『日本精神保健社会学会ニューズレター』 1998.04.
- ・「現代社会と女性のメンタルヘルス」『臨床精神医学体系 23 : 多文化間精神医学』 1998.04.
- ・「孕ませる性と孕む性:避妊責任の実体化の可能性を探る」『現代文明学研究』 1 巻 p.19-29, 1998.04.
- ・「ロールプレイを用いたセクシュアル・ハラスメントについての医学教育の試み」(共著)『医学教育』 29 巻 1 号 p.15-20, 1998.04.
- ・「外国人の医療福祉制度の現状と問題点」『大阪府保険医雑誌』 26 巻 371 号 p.14-17, 1998.04.
- ・「フィールドの入り口で:あるいは文化精神医学らしさという呪縛」『文化とところ(多文化間精神医学会雑誌)』 2 巻 3 号 p.230-237, 1998.04.
- ・「天の蛇(ティンヌパウ):ある巫女の病いと創造された伝統の物語」(共著)『文化とところ(多文化間精神医学会雑誌)』 2 巻 3 号 p.220-229, 1998.04.
- ・「When two cultures meet.2: 孤独の物語」『こころの臨床アラカルト』 17 巻 1 号 p.75-78, 1998.04.
- ・「告知についての医師の態度の形成過程と影響要因」『国外医学』 18 巻 3 号 1997.04.
- ・「在日外国人に対する医療サービスの現状と課題」『平成7年度第2回地域保健福祉研究助成報告集』 1997.04.
- ・「インフォームド・コンセントにおける患者の決断の"ゆれ"と看護婦の対応に関する研究」(共著)『平成7・8年度科学研究費補助金基盤研究B1研究成果報告書』 1997.04.
- ・「ボストンからの報告」『邦人海外渡航者の精神保健対策:欧州地域を中心とした活動の記録』 1997.04.
- ・「模擬患者とロールプレイを用いた産業保健実習」(共著)『医学教育』 28 巻 2 号 p.85-89,1997.04.
- ・「異文化が会うとき」『こころの臨床アラカルト』 16 巻 4 号 p.420-421, 1997.04.
- ・「死にゆく人をめぐるポリティックス」『日本研叢書[現代生命論研究] 早川門多・森岡正博編』 p.31-41,1996.04.
- ・「在日外国人医療の現状と課題:電話医療相談から」(共著)『日本公衆衛生雑誌 特別付録』 43 巻 10 号 1996.04.
- ・「在日外国人に対する医療サービスの現状と課題」(共著)『国際保健医療』 1996.04.
- ・「Obstetric and Gynecological Problems of the foreigners in Japan.」『The Journal of Japan Association for International Health』 10 巻 1 号 p.250-253, 1996.04.
- ・「海外赴任とメンタルヘルス:異文化とどうつきあうか」『労働の科学』 51 巻 2 号 1996.04.
- ・「取り乱す権利」『クリニシアン』 43 巻 447 号 1996.04.
- ・「日本精神保健社会とは何か」『日本精神保健社会学会 年報』 1996.04.
- ・「告知についての医師の態度の形成過程と影響要因」『医学教育』 27 巻 1 号 p.49-54, 1996.02.
- ・「災害後のメンタルヘルスとボランティア活動」『保健の科学』 37 巻 10 号 1995.04.

- ・「医療人類学と自らの癒し」『現代のエスプリ』 335 巻 p.174-183, 1995.04.
- ・「在日外国人の医療をめぐる葛藤と相互理解への試み」(共著)『健康文化』 1 巻 p.144-153, 1995.04.
- ・「緊急救援活動の支援体制：AMDA 国際医療情報センター関西」『とび出せ！AMDA』 1995.04.
- ・「国際医療協力と日本国内のバックアップ体制」『ジャミックジャーナル』 15 巻 4 号 1995.04.
- ・「リンリテキな医師患者関係」『プライマリ・ケア』 18 巻 2 号 p.125-127, 1995.04.
- ・「災害時におけるメンタルヘルスとボランティア活動」『保健の科学』 37 巻 10 号 p.662-666, 1995.04.
- ・「医療における真実告知と家族—日米医師の比較調査より」『日本医事新報』 3737 号 p.28-31, 1995.04.
- ・「米国における真実告知：医師の意識調査から見えてくるもの」『治療』 76 巻 9 号 p.172-174, 1994.09.
- ・「農村住民における抑うつと一般健康状態および生活習慣」『日本公衆衛生雑誌』 41 巻 5 号 p.452-460, 1994.05.
- ・「告知をめぐる日米医師の倫理言説」『日本医事新報』 3688 巻 p.31-34, 1994.04.
- ・「Monitoring Motherhood: Sociocultural and Historical Aspects of Maternal and Child Health in Japan」(共著)『Daedalus』 123 巻 4 号 p.87-112, 1994.04.
- ・「末期医療における真実告知：日米の医師の言説を探る」『生命倫理』 4 巻 2 号 p.94-99, 1994.04.
- ・「Informed consent, cancer, and truth in prognosis. Letter to the Editor.」『New England Journal of Medicine』 331 巻 12 号 p.810-, 1994.04.
- ・「告知をめぐる日本の医師の死生観(前編)」『ターミナルケア』 4 巻 5 号 p.427-433, 1994.04.
- ・「告知をめぐる日本の医師の死生観(後編)」『ターミナルケア』 4 巻 6 号 p.497-504, 1994.04.
- ・「難民医療援助プロジェクトにおける社会文化的アプローチ:その問題点と可能性」『日本保健医療行動科学会年報』 9 巻 p.180-199, 1994.04.
- ・「心的外傷後ストレス障害に対する Sodium valproate の使用経験」(共著)『臨床精神医学』 23 巻 3 号 p.363-368, 1994.04.
- ・「消化性潰瘍患者におけるストレスについての比較研究」(共著)『日本消化器病学会誌』 91 巻 6 号 p.1075-1085, 1994.04.
- ・「異文化におけるメンタルヘルスと病気行動:ボストン在住日本人の調査より」『日本保健医療行動科学会年報』 8 号 p.104-126, 1993.04.
- ・「安楽死と自殺幫助」『Journal of Integrated Medicine』 3 巻 9 号 p.855-857, 1993.04.
- ・「文化と医療倫理」『Journal of Integrated Medicine』 3 巻 3 号 p.282-283, 1993.04.
- ・「文化とインフォームドコンセント」『Journal of Integrated Medicine』 3 巻 5 号 p.479-481, 1993.04.
- ・「The Power of Compassion : Truth-telling among American Doctors in the Care of Dying Patients」『Social Science & Medicine』 36 巻 3 号 p.249-264, 1993.04.
- ・「終末期医療における真実告知:米国医師の視点から」『日本医師会雑誌』 108 巻 4 号 p.623-630, 1992.04.
- ・「海外移住者のメンタルヘルス:電話相談の試み」『メンタルヘルス岡本記念財団助成報告集』 4 号 p.303-306, 1992.04.
- ・「海外移住系のメンタルヘルス:メンタルヘルスハンドブックの作成」『メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集』 3 号 p.233-236, 1991.04.
- ・「海外移住者のメンタルヘルス:医療人類学的視点から」『メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集』 2 号 p.125-129, 1990.04.

### (c) 翻訳

- ・『子どもが性被害をうけたとき—お母さんと、支援者のための本 (共訳)』明石書店 2010 年
- ・『少年への性的虐待～男性被害者の心的外傷と精神分析治療～』(リチャード・B・ガートナー著、宮地尚子他訳) (共訳) 作品社 2005 年

- ・『多重人格者の心の内側の世界—154人の当事者の手記』(共訳)(Lynn W., Esther Giller ー原著) 作品社 2003年
- ・『質的研究入門』春秋社 2002年
- ・Harvard Trauma Questionnaire Japanese Version, Hopkins Symptom Checklist 25 Japanese Version  
Department of Health Policy and Management, Harvard School of Public Health 1996年
- ・「翻訳：見慣れた風景にまぎれて：売春をめぐる臨床的観察(原著：ジュディス・L・ハーマン)」『現代思想(青土社)』33巻10号2005.04.
- ・「翻訳：職人技と科学:心的外傷を受けた人たちの治療(共訳)(原著：ジュディス・L・ハーマン)」『トラウマティック・ストレス』6巻2号2008.04.
- ・「翻訳：専門職者による性的不適切行為(P S M)を防止する(共訳)(原著：ヴァーナー・チャン)」『トラウマティック・ストレス』6巻1号2008.04.

#### (d) その他

##### <書評>

- ・「『精神病理学私記』書評」『こころの科学』213号 p.93-103,2020.07.
- ・「病は物語である」書評『図書新聞』第3443号、P3.2020.04.11.
- ・「中井久夫：精神科医の言葉と作法」『精神療法』43巻6号 p.902-,2017.11.
- ・「坂上香：ライフアーズ」書評『新潟日報』p.27.(共同通信配信)2012.9.23.
- ・「ほんの少しずつのつながり『僕には世界がふたつある』(原題 Challenger Deep) 書評」『青春と読書』493号 p.58-,2017.08.
- ・「中井久夫：復興の道なかばで」書評『神戸新聞』p12.(共同通信配信)2011.6.11.
- ・「書評：べてるの家の「当事者研究」」『週刊医学界新聞(医学書院)』2007.04.
- ・「書評：ギッタ・セレニー著『人間の暗闇』」『東京新聞』2006.2.19』2006.04.
- ・「書評：澤田愛子著『夜の記憶：日本人が聴いたホロコースト生還者の証言』」『東京新聞』2005.7.17』2005.04.
- ・「書評：中井久夫『徴候・記憶・外傷』」『日本トラウマティック・ストレス学会誌』3巻1号 p.110-111,2005.02.
- ・「書評：『ドンキホーテの夢』」『文化とこころ』2(1)』1997.04.
- ・「書評：『病いの語り』」『日本生命倫理学会ニューズレター』11』1996.04.
- ・「書評：『Fatal Tradeoffs』」『Social Science and Medicine』38巻2号1994.04.

##### <辞書・辞典などの項目執筆>

- ・「近藤均他編『生命倫理事典』執筆項目：「心身症」「心身医学」「トラウマ」「心的外傷後ストレス障害(PTSD)」『太陽出版』2002.04.
- ・「『保健医療行動科学事典』(執筆項目：「生物心理社会モデル」「不眠」「フェミニズム」の項(分担執筆))」『日本保健医療行動科学会監修)メヂカルフレンド社(198,262,265頁)』1999.04.

##### <一般雑誌への論文・記事などの執筆>

- ・「10年目、16年、75年、25年、そして。」『Art Support Tohoku-Tokyo 2011→2020』ホームページ「特集10年目のわたしたち：東日本大震災から10年目、いま何を考えていますか？」公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 <http://astr.jp/feature/ima/miyaji/>
- ・「不安なときに」『母の友』080号 p.32-34,2020.09.
- ・「2020年読書アンケート」『みすず』63巻1号 p.82-83,2020.02.
- ・「母を見送る」『母の友』800号 p.58-59,2020.01.



- ・「疲れたときに」『母の友』797号 p.32-33,2019.10.
- ・「こわかった記憶（2）母が人質になったこと（リレーエッセイ家族のかたち第7回）」『Chio 通信』8号 p.4-5,2019.01.
- ・「こわかった記憶（1）父と蛇（リレーエッセイ家族のかたち第6回）」『Chio 通信』7号 p.2-3,2018.10.
- ・「子育てを楽しめないとき」『母の友』779号 p.18-20,2018.04.
- ・「グッドイナフマザー」『母の友』757号 p.32-33,2015.06.
- ・「クロスする感性」『週刊医学界新聞連載』2007.04.
- ・「トラウマ：日常生活のメンタルヘルス環境」『現代という環境（渡辺雅男・渡辺治編） 旬報社』2007.04.
- ・「内なる海」『世界思想 33』2006.04.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（7）」『性差と医療』3巻12号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（6）」『性差と医療』3巻11号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（5）」『性差と医療』3巻10号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（4）」『性差と医療』3巻4号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（3）」『性差と医療』3巻3号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（2）」『性差と医療』3巻2号2006.
- ・「医療従事者のためのDV被害者への対応講座（1）」『性差と医療』3巻1号2006.
- ・「○（えん）なるもの」『奄美自由大学』2005.04.
- ・「二つの場所の「間」から」『みすず書房HP：著者から一言 <http://www.msz.co.jp/>』2005.04.
- ・「特別寄稿：DV被害者の自立支援」『武蔵野大学心理臨床センター ニュースレター（9）』2005.04.
- ・「トラウマの医療人類学15：アブグレイブの写真」『こころの臨床アラカルト』24巻1号2005.04.
- ・「ドメスティック・バイオレンスにどう向き合うか：医療者ができること・なすべきこと（甲村弘子・佐々木静子・宮地尚子鼎談）」『性差と医療』2巻10号2005.04.
- ・「インタビュー 神話を解く学術専門書『少年への性的虐待』：男性の健康なセクシュアリティとは？」『セクシュアル・サイエンス8（on line 雑誌）』2005.04.
- ・「知らないでいる」ことに特権はない：臨床におけるトラウマとジェンダー（宮地尚子・早乙女智子対談）」『セクシュアル・サイエンス9（on line 雑誌）』2005.04.
- ・「解説：ジュディス・L・ハーマン『見慣れた風景にまぎれて：売春をめぐる臨床的観察』」『現代思想』33巻10号2005.04.
- ・「『男性への性暴力』から見えてくるもの：訳者解説にかえて」『『少年への性的虐待～男性被害者の心的外傷と精神分析治療～（リチャード・B・ガートナー著、宮地尚子他訳）』 作品社』2005.04.
- ・「トラウマの医療人類学17：トラウマの皮膚に触れる」『こころの臨床アラカルト』24巻3号2005.
- ・「トラウマの医療人類学16：トラウマの味と匂い」『こころの臨床アラカルト』24巻2号2005.
- ・「心の傷が招くさらなる痛み」『人権ジャーナルきずな』兵庫県人権啓発協会』2004.04.
- ・「ドメスティックバイオレンス講座：インタビュー（内閣府編集）」『共同参画』21巻11号2004.04.
- ・「「慰安婦」問題と現代の性暴力」『『あるおばあさんの話 元『慰安婦』の証言（『資料集』所収）』 一橋証言委員会』2004.04.
- ・「特集：ジェンダー・暴力・身体 「特集にあたって」」『こころと文化』3巻2号2004.04.
- ・「用語解説 複雑性PTSD」『臨床精神医学』33巻12号2004.04.
- ・「トラウマの医療人類学14 子どものトラウマの半世紀後の影響」『こころの臨床アラカルト』23巻4号2004.
- ・「トラウマの医療人類学13 オノ・ヨーコの世界」『こころの臨床アラカルト』23巻3号2004.
- ・「トラウマの医療人類学12 身体について」『こころの臨床アラカルト』23巻2号2004.
- ・「トラウマの医療人類学11 ハルモニの証言と傷の存在・不在」『こころの臨床アラカルト』23巻1号2004.

- ・「学問の境界(ボーダーランド)を探索してみよう」『Hitotsubashi Quarterly 創刊号』2003.04.
- ・「大規模災害、事故、戦争、テロなどでトラウマを受けた人々への対応について(共著:仲本光一)」(共著)『『領事担当官ハンドブック-在外邦人のためのメンタルヘルスケア(野田文隆・鈴木満編)』多文化間精神医学会発行』2003.04.
- ・「トラウマの医療人類学10:薬害エイズと告知」『こころの臨床アラカルト』22巻4号2003.
- ・「トラウマの医療人類学9:薬害エイズとトラウマ」『こころの臨床アラカルト』22巻3号2003.
- ・「トラウマの医療人類学8:マイノリティと狭義のトラウマ体験」『こころの臨床アラカルト』22巻2号2003.
- ・「トラウマの医療人類学7:マイノリティのトラウマ」『こころの臨床アラカルト』22巻1号2003.
- ・「PTSD 概念と法」『JSTSS NEWS 7』2002.04.
- ・「異邦人として生きる」『外交フォーラム 169』2002.04.
- ・「多文化間精神医学」『グローバリゼーション(伊豫谷登士翁)』2002.04.
- ・「トラウマの医療人類学6:トラウマの演出と証言の真実らしさ」『こころの臨床アラカルト 21(4)』2002.
- ・「トラウマの医療人類学5:2002年に観る『ショア』」『こころの臨床アラカルト 21(3)』2002.
- ・「トラウマの医療人類学4:ベトナム帰還兵とは誰のことか?」『こころの臨床アラカルト 21(2)』2002.
- ・「トラウマの医療人類学3:「加害者」の恐怖」『こころの臨床アラカルト 21(1)』2002.
- ・「座談会: Global Women 世界のフィールドから(共著)」(共著)『ハーパス・バザー』2001.09.
- ・「働くことも子育ても 運命の失恋に対応するために」『東京ウィメンズプラザニュース』3号2001.04.
- ・「討論: グローバル・イシューをどう捉えるか(共著)」(共著)『グローバリゼーション』2001.04.
- ・「境界」『国立学報 8』2001.04.
- ・「トラウマの医療人類学2:トラウマと距離」『こころの臨床アラカルト 20(4)』2001.
- ・「トラウマの医療人類学1:トラウマと歴史・社会」『こころの臨床アラカルト 20(3)』2001.
- ・「When two cultures meet.15: Good Bye = Thank you」『こころの臨床アラカルト 20(2)』2001.
- ・「When two cultures meet.14: レクイエム」『こころの臨床アラカルト 20(1)』2001.
- ・「学会の印象: 第7回多文化間精神医学会」『精神療法』26巻4号2000.04.
- ・「When two cultures meet.13: パレスチナ」『こころの臨床アラカルト 19(4)』2000.
- ・「When two cultures meet.12: 謎の女」『こころの臨床アラカルト 19(3)』2000.
- ・「When two cultures meet.11: 20歳の人生落伍者」『こころの臨床アラカルト 19(2)』2000.
- ・「When two cultures meet.10: 邦人援護」『こころの臨床アラカルト 19(1)』2000.
- ・「『衛生学』の項(分担執筆)」『『医学生のための進路ナビ:私は何故現在の科目を選んだか(日本医事新報社編)』』1999.09.
- ・「When two cultures meet.9: 恋愛と結婚」『こころの臨床アラカルト 18(4)』1999.
- ・「When two cultures meet.8: ステレオタイプ」『こころの臨床アラカルト 18(3)』1999.
- ・「When two cultures meet.7: PTSD (後編)」『こころの臨床アラカルト 18(2)』1999.
- ・「When two cultures meet.6: PTSD (前編)」『こころの臨床アラカルト 18(1)』1999.
- ・「子どもの未来と世界について考える懇談会提言(共著者:本間長世ほか)」(共著)内閣官房外政審議室・子どもの未来と世界について考える懇談会. 1999.04.
- ・「サバイバーのための精神医療とは」『女性への暴力防止(ウィメンズセンター大阪編)』1998.04.
- ・「When two cultures meet.5: リミナリティ」『こころの臨床アラカルト 17(4)』1998.
- ・「When two cultures meet.4: 移民候補」『こころの臨床アラカルト 17(3)』1998.
- ・「When two cultures meet.3: アメリカンドリーム」『こころの臨床アラカルト 17(2)』1998.
- ・「When two cultures meet.1:異文化と出会うとき」『こころの臨床アラカルト 16(4)』1997.
- ・「『助けられる人たちは無力ではないーリレー・エッセイ国際協力の現場から1』」『外交フォーラム 101』1997.04.

- ・「精神保健社会学とは何か—メンタルヘルスの社会学」宗像恒次、清水信二、武藤清栄、南定四郎、朝倉隆司との座談会)『日本精神保健社会学会年報 2』1996.04.
- ・「たかがインフォームド・コンセントされどインフォームド・コンセント：インフォームド・コンセントの混乱点と日本での受け入れ状況」『Review』13巻p.11-15,1996.04.
- ・「ショックを受けたときの女の心と身体の変化」『女のためのクリニックニュース 120』1995.04.
- ・「海外の伝統医学雑誌紹介 Culture, Medicine and Psychiatry」『現代東洋医学 16(2)』1995.04.
- ・「私たちにとっての脳死・臓器移植問題 (田中喜美子、堀越由紀子、山本南生美、向井承子との座談会)」『いのちといのちの間で：私たちにとっての脳死・臓器移植問題』1994.04.

#### <その他>

- ・「安さんの魂が映画に吹き込まれ、これからも生きていく」『心の傷を癒すということ』劇場版パンフレット 2021.1.29.
- ・「中井先生に会いに、神戸へ」『中井久夫：精神科医の言葉と作法』2017.05.
- ・「9.11 以前と以後に」『書齋の窓』516号p.28-31,2002.04.
- ・「宮地尚子・新福尚隆：ニューヨーク在留邦人コミュニティにおける精神保健サービスの需要と供給」(共著)『文化とところ』5号p.129-132,2001.04.
- ・「宮地尚子・ジョシュア・ブレスロウ：ボストン在留邦人コミュニティにおける精神保健サービスの需要と供給」(共著)『文化とところ』5号p.126-132,2001.04.
- ・「女性のメンタルヘルス」『モダン・フィジシャン』22巻10号p.1240-1244,1998.05.
- ・「孕ませる性の自己責任はどう実体化しうるか?」『インパクション』108巻p.144-151,1998.04.
- ・「ヘルスポリシーとヘルシーポリシー—リレー・エッセイ国際協力の現場から 13」『外交フォーラム』116巻p.96-97,1998.04.
- ・「ハーバード心的外傷質問票・日本語版」『Harvard School of Public Health』1997.04.
- ・「ホプキンス症状チェックリスト・日本語版」『Harvard School of Public Health』1997.04.
- ・「「助けられる人たちは無力ではない。」」『外交フォーラム』101巻p.122-123,1997.04.
- ・「日本も国際協力の『現場』である—リレー・エッセイ国際協力の現場から 4」『外交フォーラム』105巻p.102-103,1997.04.
- ・「国際社会にあふれている心的外傷」『外交フォーラム』112巻p.96-97,1997.04.
- ・「感受性抜きの援助は『再被害』—ヘーリレー・エッセイ国際協力の現場から 7」『外交フォーラム』108巻p.96-97,1997.04.
- ・「PTSD 考:阪神大震災によせて」『誠信プレビュー』55巻p.5-8,1995.04.
- ・「いまアメリカでは:医学教育における新しい人間学の試み?」『現代のエスプリ(至文堂)』313号p.100-110,1993.04.
- ・「異文化のメンタルヘルス」『「本」講談社』p.36-39,1992.04.
- ・「海外生活とメンタルヘルス」『めんたるへるす 徳島県精神保健協会』41号p.27-31,1992.04.

#### B.本研究科着任後の研究活動 (着任 2001 年)

[着任後の国内外学会発表、基調報告・招待講演には「\*」のマークをつけてください]

##### (a)国内外学会発表

- \* ト라우マにかかわること (薬物問題を抱えた女性の支援と回復を考える), 国立精神・神経医療研究センター 2021.2.14, WEB 開催
- \* ト라우マと生命倫理 (第 85 回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会「温泉・気候・物療とスポーツを科学する」), 2021.1.31, WEB 開催

- ・精神科医・安克昌からのメッセージ～NHK ドラマ「心の傷を癒すということ」を読み解く～（日本トラウマティック・ストレス学会ランチタイムセミナー）,2020.9.21,WEB 開催
- \* 岡崎「性暴力」事件から見てきたもの：学術に何ができるか,日本学術会議公開シンポジウム,2019.10.19,日本学術会議講堂
- \* 解離・ジェンダー・文化（特別講演およびシンポジウム「社会・ジェンダー・解離」）,国際トラウマ解離研究会 日本支部解離研究会,2018.12.16,聖路加国際大学
- ・ Cultivating Trauma. (Cultivating Trauma, The 5th World Congress of the World Association of Cultural Psychiatry(WACP),2018.10.10, Columbia University, N.Y.)
- \* Secrets and Lies around Trauma (The 4th World Social Science Forum, International Social Science Council (ISSC),2018.9.25, Fukuoka International Congress Center, Fukuoka)
- ・ Secret and Lies around Trauma (the 3rd Conference of the South-South Institute on Sexual Violence against Men and Boys.) ,2017.11.5, ARA Institute of Canterbury, Christchurch, New Zealand
- ・ 暴力と尊厳：公私の二分法から公／親密／個の三分法へ（第三回一橋大学政策フォーラム：尊厳概念のアクチュアリティ）,2016.10.22, 一橋大学
- \* Secrets and Lies around Trauma. (Regional Launch of the World Suicide Report and Suicide Prevention Meeting in Japan) ,2015.12.1, 国立精神・神経医療研究センター
- ・ 治療関係における「安全さ」を求めて～トラウマ臨床における配慮～（第 111 回 日本精神神経学会学術総会）,2015.6.4, リーガロイヤルホテル大阪
- ・ 性暴力被害者の慢性期におけるジェンダー・センシティブな精神科臨床（第 111 回 日本精神神経学会学術総会）,2015.6.4, 大阪国際会議場
- ・ A New Metaphor for Speaking of Trauma – The Troidal Island Model, Conference of the European Society for Trauma and Dissociation(ESTD): Trauma, Dissociation and Attachment in the 21st Century: Where are we Heading? 2014.3.29 Tivoli Congress Center, Copenhagen, Denmark,
- \* Encounter with Medical Anthropology (Margaret Lock conference: New Directions in Social Studies of Medicine, Science, and Ethics.) ,2014.3.13, Jones Hall, Princeton University, United States
- ・ 日本でトラウマを耕す—精神病理学、逸脱、創造性、国際シンポジウム:アジア・太平洋戦争および現代世界における大規模暴力をめぐる総合的比較研究『大規模暴力の語り方—日仏学際対話の試み—』,2013.9.13,一橋大学
- \* 外来でのトラウマ臨床～語りづらさによりそう、公益社団法人日本精神神経科診療所協会 平成 25 年度定時総会・第 19 回（通算 40 回）学術研究会 特別講演,2013,6,29,札幌コンベンションセンター
- \* For unspeakable trauma: Troidal Island (Island with inner sea)Model, The Way to Look Back at the Past and Massive Violence in Japan and Spain: Encounters and Exchange”, 2013.3.7,Oviedo, Spain.
- \* 傷のそばに佇む,日本質的心理学会,2011.11.26,安田女子大学
- \* 震災後における心のケアについて,岩手精神医学学術講演会,2011.10.7,盛岡グランドホテル
- \* 医療で出会うドメスティック・バイオレンス（DV）被害者への支援,第 28 回日本医学会総会,2011,4,8
- ・ つながるための<しかけ>をいかに作るか？—協働的表現における対話・身体・場をめぐる、津田ソーシャルメディアセンター国際シンポジウム（コメンテーター）,2011.2.20
- \* トラウマの語り～『環状島』その後,日本質的心理学会,2010.12.4,東京大学
- \* 性暴力と隠れた権力／圧力,スポーツとジェンダー学会,2010.7.3,神戸大学
- \* トラウマを語る／語らないことと、支援者の役割,神戸大学倫理創成プロジェクト,2010.6.7,神戸大学
- ・ 多様な語りを想像／創造する,津田ソーシャルメディアセンター（コメンテーター）,2010.3.19
- ・ 沖縄戦とコミュニティについて（日本トラウマティック・ストレス学会第 9 回大会）,2010.3.6

- ・DVから見た家族：公的領域・親密的領域・個的領域（東京大学哲学研究室科研費プロジェクト「哲学・芸術・国家」シンポジウム「家族 自由の原点—ひとつの神話として」）,2010.1.29,東京大学
- \* 語られないトラウマとPTSD：性暴力やDVの被害者ケア,兵庫県精神神経科診療所協会学術講演会,2019.10.17,神戸生田神社会館
- \* 男性の性暴力被害とその影響, 京都女子大学公開講座,2009.5.30,京都女子大学
- \* トラウマについて語るということ：環状島モデルと学際研究, 筑波大学「異分野融合型研究プログラム」,2009.2.4,筑波大学
- \* 介入の芸術：個人の記憶、公共の記憶、その交差点へ（キングストン大学・京都精華大学主催シンポジウム『「S/N」について、語られなかったこと』）2009.1.10
- \* トラウマに向き合うということ：環状島モデルを用いて,南山大学宗教文化研究所,2008.12.12
- \* Geopolitics of Trauma in Japan, the international conference on mental health issues in Japan: “Crazy in Japan: Ethnographic perspectives on psychiatry and mental health, the council on east Asian Studies and the Department of Anthropology, 2008.11.13, Yale University
- ・ Toroidal Island: Geopolitics of Trauma“ Women in Research Group, Cambridge, NY Health Week 2008.5.9
- \* Toroidal island: sexual violence and trauma during conflicts and in post- conflict situations.” Advanced Study Institute, Workshop: Peace, Conflict and Reconciliation; contributions of cultural psychiatry, Division of Social and Transcultural Psychiatry, Workshop, 2008.4.29-5.1, McGill University.
- ・ Male survivors in Japan, Male Survivor 2007 International Conference,2007.10.28, NY, U.S.A
- ・ 親密圏における暴力とトラウマが「健康」の概念に問いかけるもの,第23回日本現象学・社会科学会シンポジウム「健康」,2006.12.3
- \* 暴力・ジェンダー・アート：性的な傷つきと表象,甲南大学人間科学研究所,2006.9.29
- ・ Why do victims of sexual violence become so traumatized? A multi-dimensional consideration” World Congress of Traumatic Stress, Symposium “Women’s victimization in Japan” Chairperson and a symposist.,2006.6.24, Buenos Aires, Argentina
- ・ 性暴力やDV被害者との臨床から学んだこと,日本女性学会「ジェンダーをめぐる暴力とトラウマ」シンポジウム,2006.6.10
- \* 少年への性的虐待と心の傷（小児精神神経学会ランチオンセミナー招待講演）2005.10.15
- ・ ドメスティック・バイオレンスへの対応,日本心理臨床学会シンポジスト,2005.9.4
- ・ 性暴力とドメスティック・バイオレンス（第4回日本トラウマティック・ストレス学会シンポジウム「性暴力はなぜトラウマティックなのか？」主催、シンポジスト）,2005.3.26
- ・ ジェンダーと刑事法：保護法益の見直しとジェンダー,日本刑法学会第81回大会 ワークショップ講師,2003.5.25
- ・ Post Partum Depression in Indonesia: Introduction and methodology“Disaster Mental Health: Reports from New York” International Seminar on Treatment and Rehabilitation of Mental Illness in Asia,2002.2.9-11, Kobe University Graduate School of Medicine

#### **(b) 国内研究プロジェクト**

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「「外傷性精神障害」からみたトラウマとジェンダーの相互的影響」(研究代表者)、日本学術振興会、2017.4～2022.3
- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「「外傷性精神障害」からみたトラウマとジェンダーの相互的影響」(研究代表者)、日本学術振興会、2013.4～2017.3
- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「トラウマとジェンダーの相互作用：精神病理・逸脱・創造性」(研究代表

- 者)、日本学術振興会、2009.4~2013.3
- ・一橋大学 H20 年度個人研究支援経費 「トラウマと男性性：性暴力の連鎖について」 2008~2009
  - ・一橋大学 21 世紀 COE プログラム「ヨーロッパの革新的研究拠点：衝突と和解」事業推進担当者 2004~2009.
  - ・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「外傷性精神障害」からみたトラウマとジェンダーの相互的影響 (研究代表者)、日本学術振興会、2004.4~2008.3
  - ・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「外傷性精神障害におけるジェンダーの影響」 (研究代表者)、日本学術振興会、2001.4~2004.3

### (c) 国際研究プロジェクト

The William Alanson White Institute of Psychiatry, Psychoanalysis & Psychology (アメリカ)、The Next Step Counseling and Training (アメリカ)、The South- South Institute on Sexual Violence Against Men and Boys (国際ネットワーク) などと連携し、共同研究を行っている。

- ・2021 年 3 月 20 日 Global conference on trauma and gender 2 : Non-apology apology 国際会議、WEB 開催
- ・2020 年 12 月 28 日、29 日 Global conference on trauma and gender : What is happening to us, and what is happening on gender based violence under COVID-19 pandemic? 国際会議、WEB 開催。 その他。

### (d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

科学研究費補助金の研究会議を、毎年 2~4 回開催。

また、他機関との共催での研究会議も行っている。

- ・2015 年 2 月 2 日 講演会「親密な関係にかんする市民権——異国籍同性カップルが日本で子どもを産み育てる場合」、社会学研究科 CGraSS(ジェンダー社会科学研究センター)との共催 一橋大学佐野書院。
- ・2014 年 6 月 15 日 一般公開トークイベント、宮地尚子・呉夏枝「アート、トラウマ、アート、トラウマ、ほどく精神の営み」、NPO 法人アートフル・アクションとの共催、前原暫定集会施設。 その他。

## C. 受賞

- ・精神科専門医・指導医 日本精神神経学会認定 (10591) 2007
- ・第 3 回 JAMIC 懸賞論文・論文部門最優秀賞, 1995
- ・日本青年会議所 TOYP(The outstanding young persons)大賞, 1994

---

## 6. 学内行政

### (B) 学内委員会 [ただし、入試の出題・採点委員はのぞく]

- ・研究倫理審査委員会 2018 年 4 月~2020 年 3 月
- ・『越境社会科学』編集委員
- ・地球社会研究専攻主任 2012 年 4 月~2014 年 3 月

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学非常勤講師など

1989 年 園部保健所 非常勤医師

1991 年-1993 年 ポストン在住日本人向け電話相談プロジェクト主催

1993年-2001年	AMDA 国際医療情報センター関西代表
1992年-1997年	平和会吉田病院 精神科 非常勤医師
1997年-2001年	耳原総合病院 精神科 非常勤医師
1993年-1999年	国際日本文化研究センター 共同研究員
1994年-2001年	金沢大学教養部非常勤講師
1996年-2004年	佐賀医科大学非常勤講師
1996年-2001年	神戸大学医学部医学研究国際交流センター 客員講師
2001年-2005年	神戸大学医学部医学研究国際交流センター客員助教授
1997年-現在	京都府立医科大学 客員講師
1998年-2003年	関西医科大学 非常勤講師
1998年-2000年	羽衣学園短期大学非常勤講師
2001年-2007年	東京都ウィメンズプラザ（配偶者暴力相談支援センター）心理相談アドバイザー
2005年	JICAペルー心的外傷ケアプロジェクト 専門家派遣2回
2008年	JICAペルー心的外傷ケアプロジェクト 専門家派遣1回
2008年-2016年	医療法人社団アパリ・クリニック上野 精神科 非常勤医師

**(b) 所属学会および学術活動[役職歴のある場合は、役職名と在任期間を注記]**

- ・日本トラウマティック・ストレス学会（学会誌編集委員 2002年から現在）
- ・多文化間精神医学会（1995-2010 理事、1995-2009 学会誌編集委員）
- ・日本精神神経学会
- ・国際トラウマティック・ストレス学会（International Society for Traumatic Stress Studies: ISTSS）

**(c) 公開講座・市民講座**

- ・2006年 一橋大学社会学部・読売新聞立川支局共催 連続市民講座「現代」という環境—10のキーワードから 12月16日（土）宮地 尚子「トラウマ—日常のメンタルヘルス環境」
- ・2014年 一橋大学社会学部・読売新聞立川支局共催 連続市民講座 再生と変容 移りゆく社会をとらえる — 11月15日（土）宮地尚子「心を護り、耕すということ」

**(e) その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）**

- ・『環状島〜トラウマの地政学』から学ぶトラウマケア（2020年度女性依存症者に特化した全国支援者研修）,2020.10.31,WEB開催
- ・犯罪被害とトラウマ,愛知県弁護士会招待講演,2019.12.6
- ・第3部パネルディスカッション「医療の現場からみた性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と課題」（日本弁護士連合会シンポジウム 医療の現場からみた「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と課題」）,2019.1.26,弁護士会館
- ・医療現場におけるDV（ドメスティック・ヴァイオレンス）被害者への支援（富山県医師会 DV被害者早期発見のための医療機関向け研修会）,2018.3.17
- ・ははがうまれる（京都府私立幼稚園PTA連合会研修会）,2016.6.27, ホテルグランヴィア京都
- ・DV、性暴力とトラウマ（NPO法人 女性の安全と健康のための支援教育センター研修）,2016.2.28, 東京有明医療大学
- ・トラウマを抱え、生きるとは—傷のそばにたたずむ（さいたま市男女共同参画推進センター研修）,2015.11.28, 生涯学習総合センター

- ・DV 被害者支援における PTSD の知識について（神奈川県立かながわ男女共同参画センター女性問題研修会），2015.11.26,神奈川県立かながわ男女共同参画センター
- ・災害における女性相談とメンタルヘルス（全国女性会館協議会），2015.9.11, 独立行政法人国立女性教育会館
- ・ハラスメントによる傷つき、東京経済大学・教員対象講演会 2015.3.2.
- ・被災地における女性支援、仙台市主催・（公財）せんだい男女共同参画財団共催講演会「震災とDV」,2014.3.2,エル・ソーラ仙台
- ・トラウマとは：トラウマは耕せるのか,発達障害・専門講座 8：発達障害とトラウマ,2014.2.9,福岡市南近代ビル
- ・心の傷と向き合い支え合うートラウマとは何か,藤沢市精神科医会定例講演会,2014.1.29,藤沢市医師会館
- ・性暴力被害と損害論,日本弁護士連合会ライブ講座,2013.12.18, 弁護士会館
- ・復興の道のりと芸術の力,全労済文化フェスティバル,2012.3.19,全労済ホール
- ・震災トラウマと復興ストレスー環状島から,C I V I T A S主催 第一回シンポジウム「震災以後」,2011.12.11,武蔵野プレイス
- ・女性支援と被災地支援,全国シェルターネット全国大会、2011.11.19,仙台市民会館
- ・DV 等被害者にとってトラウマを語ること／語らないことー支援者として傍らに寄り添うために,富山県女性財団講演会,2011.11.11,富山県民共生センター「サンフォルデ」
- ・ジェンダーとトラウマ「性的支配」を考える,琉球大学国際沖縄研究所レクチャーリシーズ 2011 第 1 回,2011.7.15,てんぶす那覇
- ・性暴力と依存症（地域で生活する依存症回復途上者および家族を支えるための討論会第 3 回）,2010.11.24,ダルク女性ハウス
- ・傷を晒す／晒さない場所：環状島モデルをもちいて,東京プライド・シンポジウム、2010.7.4,東京大学
- ・語られないトラウマと当事者と支援者：環状島モデルを用いて「薬物依存連続セミナー」,2010.1.23,大阪フリーダム
- ・医療現場におけるDV被害者対応,北海道環境生活部「医療関係者向け配偶者暴力防止に関する講演会」,2009.11.29,札幌教育文化会館
- ・DV 家庭における性暴力及び性虐待被害当事者へのサポート,全国公開講座北海道・全国女性シェルターネット 2009.11.28
- ・性暴力被害者の心のケアに必要なもの,性暴力禁止法をつくろうネットワークー周年記念大会,2009.6.27,大妻女子大学千代田校
- ・性被害と性加害の”連鎖をめぐって,知的発達障害者人権センター基金事務局,2009.6.25,アパリクリニック上野
- ・ハンセン病とトラウマをめぐって,ハンセン病市民研究会,2009.1.24,多摩全生園
- ・医療現場におけるDV被害者への対応,群馬大学医学部附属病院、2008.12.1
- ・医療現場におけるDV被害当事者への対応,全国シェルターシンポジウム,2008.11.22
- ・医療現場におけるDV被害者への対応,久喜看護専門学校,2008.10.18
- ・性暴力は、なぜ、どのように人の心を傷つけるのか,キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク第 1 2 回全国集会,2006.7.29
- ・被害者を支援するということーDV、性暴力をめぐってー,信田さよ子・上岡陽江・宮地尚子ワークショップ（フェミカン）,2006.5.1
- ・恋愛の中の暴力：男女の対等なパートナーシップのために,東京都生活文化局都民生活部男女平等参画・青少年対策室 男女の対等なパートナーシップを学ぶ講演会 基調講演,2004.11.29
- ・第 2 回 女性精神科医による女性のメンタルヘルスを考える会 招待講演,2004.11.18
- ・妊産婦の健康改善にインフラは役立つのか, UNFPA/JBIC 国連人口基金／国際協力銀行 共同研究シンポジ



## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- 1997年-1999年 内閣官房外政審議室「子どもの未来と世界について考える懇談会」委員
- 2001年-2002年 内閣府男女共同参画局推進課 「配偶者からの暴力の加害者更正に関する研究会」委員
- 2003年-2004年 国際協力銀行「保健セクター目標に対するインフラの関連性評価手法開発」第三者評価委員会委員
- 2004年～2005年 内閣府男女共同参画局「配偶者暴力加害者更生マニュアル作成委員会」委員（座長）
- 2004年～2005年 東京都生活文化局「地域における配偶者からの暴力の加害者更生に関する調査研究」企画運営委員会委員
- 2009年～現在 神奈川県立かながわ男女共同参画センター DV 被害者相談スーパーバイザー
- 2013年11月～2014年10月 警察庁「ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討会」委員
- 2021年3月～現在 東京都男女共同参画審議会

## 9. 一般的言論活動 [新聞やテレビ・ラジオなど各種メディア]

- ・「右も左も分からなくても」（ラジオ深夜便「ママ☆深夜便 ことばの贈りもの」）2020年12月
- ・「触れる」にふれる：『手の倫理』『トラウマにふれる』刊行記念（ゲンロンカフェ）2020年12月
- ・切羽つまって考える（『トラウマにふれる』（金剛出版）『やってくる』（医学書院）W刊行記念イベント）2020年10月
- ・「揺れるところ ふれる言葉（連載全12回）」（共同通信配信）『宮崎新聞』『埼玉新聞』『新潟新聞』『徳島新聞』『山陽新聞』『伊勢新聞』『秋田新聞』『大分新聞』『下野新聞』『福井新聞』『高知新聞』『神奈川新聞』『京都新聞』他約20紙、2020.08.
- ・「コロナ禍を生きる」『聖教新聞』p.10-10,2020.07.
- ・「感染してもいいけど、1人目にはなりたくない... なぜ、「自粛警察」や感染者バッシングは起きるのか？（インタビュー）（Buzzfeed News）2020年06月
- ・「コロナ禍、予測不能な状況の中で」『秋田新聞』p.9-9,2020.04.
- ・「入職1年目で自ら命を絶つ若者も。故郷や家を失いながら働き続ける自治体職員の葛藤（インタビュー）（Buzzfeed News）2020年03月
- ・「心の傷に満ちた世界で」『日本海新聞』p11.（共同通信配信）2020.3.11.
- ・NHK Eテレ（NHK教育テレビジョン）「こころの時代～宗教・人生～『心のケアから品格ある社会へ』」2020年3月1日放送
- ・（精神医療考証として製作協力）NHK土曜ドラマ「心の傷を癒すということ」、放送日：2020年1月18日～2月8日（全4話、土曜日放送）、2020年3月1日 スペシャル版（関西地方のみ）
- ・「心の傷と向き合う」『同朋新聞』p.2-3,2019.03.
- ・J-WAVE（FM81.3）「Jam the World」「Breakthrough」スペシャル企画「震災から6年、あの日を忘れない」『復興ストレス』について』。2017.3.6.
- ・FM ラジオ（Plains FM 96.9）Christchurch, New Zealand, 「Lighthouse of Hope」『A Trauma Model from Japan』2017.1.31.
- ・「再考 ポスト3.11」『愛媛新聞』p20.（共同通信配信）2013.3.16.
- ・「論点:被災支援者に心のケアを」『読売新聞 4月1日』p.14,1995.04.
- ・「論点:外国人治療「違い」を尊重」『読売新聞 5月7日』p.12,1994.04.
- ・「泥水を飲まない方法はあるか—システムに支えられたいのち」『毎日新聞 4月13日朝刊』1996.04.

- ・「自ら癒す（内田温士、江部康二、笹子三津留とのパネルディスカッション）」(共著)『読売新聞1月24日(夕刊)』 p.6-7,1995.04.